

2024 年度 環境経営レポート

(対象期間： 2023 年 7 月 1 日～2024 年 6 月 30 日)



発行日：2024 年 12 月 12 日



®環境省
エコアクション21
認証番号 0013535

目次

環境経営方針	3
組織の概要	4
事業の紹介	5
環境経営組織及び役割・責任・権限.....	6
主な環境負荷の実績.....	7
環境経営目標及びその実績.....	7
環境経営計画の取組結果とその評価	8
次年度環境経営目標及び環境経営計画.....	12
環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無 ..	12
代表者による全体の評価と見直し・指示.....	13
これまでの環境活動の紹介	14

環境経営方針

環境経営理念

私たちは、地域社会やお客様の「お役に立てて幸せです」と言い続けられる企業になるために、環境に配慮した経営を継続的に改善、発展させ、各種包装資材の製造販売事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献します。

環境経営方針

1. 二酸化炭素排出量の削減を推進します
2. クラフト紙など原材料の廃棄ロス削減とリサイクルに取り組めます
3. 水や電力など、資源の節約と有効活用努めます
4. 環境に配慮した製品をお客様にお届けします
5. 環境関連法規制や当社がお約束したことを遵守します
6. 環境経営方針を全社員に周知し、取組や教育を通じて環境意識を高めてまいります
7. 経営における課題とチャンスと踏まえ、新たなチャレンジをまいります



2021年6月30日

山口包装工業株式会社
代表取締役 山口敦央

組織の概要

1. 名称及び代表者名

山口包装工業株式会社 代表取締役社長 山口敦央

2. 所在地

本社:大阪府八尾市竹濑3丁目115番地(会社登記住所)

3. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 山口 敦央

事務局 畑 由子、畑 美帆

TEL:06-6709-1862 FAX:06-6709-0272

4. 事業内容

産業用クラフト重袋の製造販売及びその他包装資材の販売

5. 事業規模

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
従業員数	36 名	38 名	40 名
延床面積	2,700 m ²	2,700 m ²	2,700 m ²
売上	667 百万円	691 百万円	742 百万円



6. 事業年度

2024 年度<2023 年 7 月 1 日 ～ 2024 年 6 月 30 日>

7. 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 山口包装工業株式会社

対象事業所: 本社(全組織、全活動が対象)

活 動: 産業用クラフト重袋の製造販売及びその他包装資材の販売

事業の紹介

営業品目

クラフト重袋

合成樹脂や化学薬品、建材、食品などの原料袋として使用



米袋

自社製造の紙袋に加え、各種プラスチック袋も取扱い



ミニチュア米袋

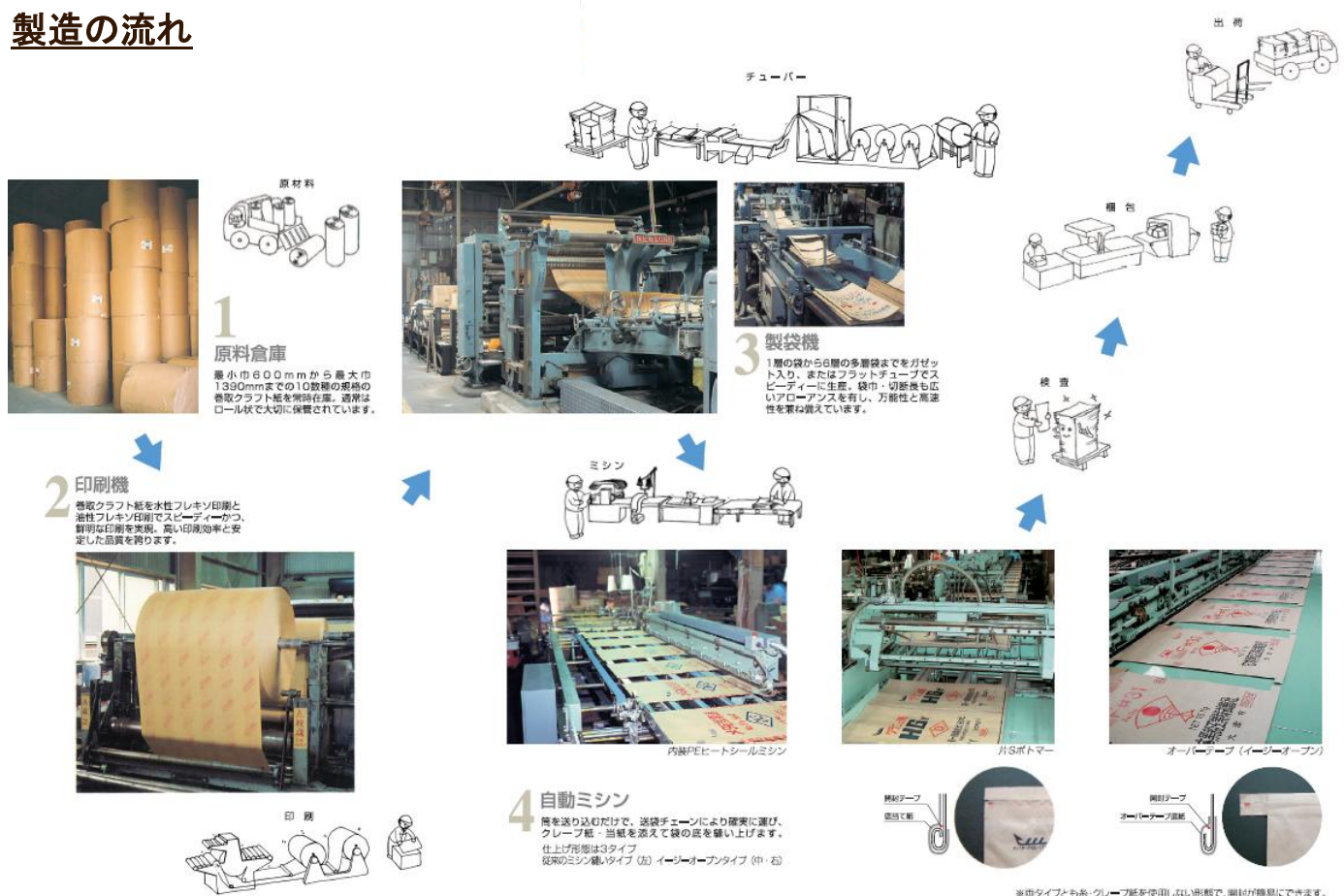
1～5号サイズの袋（お菓子等のギフト袋としても利用）



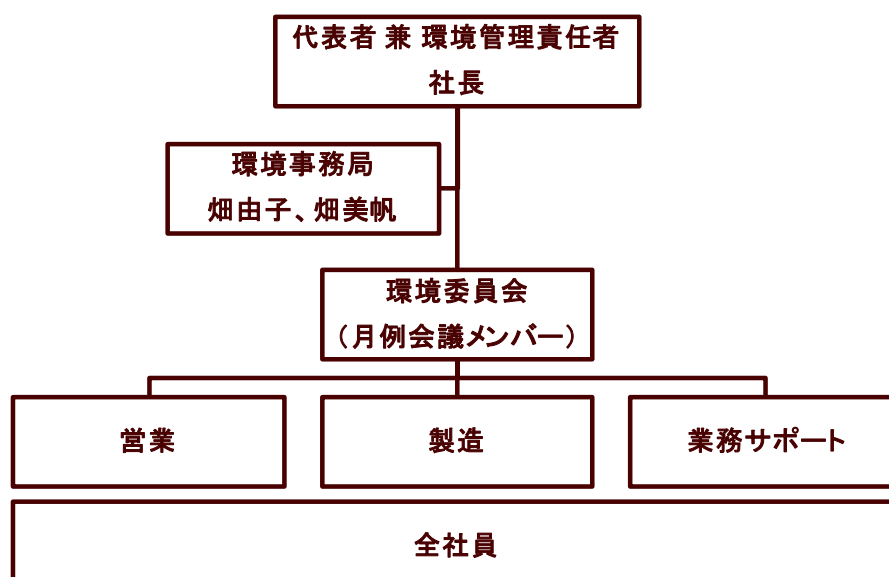
その他包装資材

- ・クラフト重袋関連副資材（糸、クレープ紙、テープ他）
- ・フレキシブルコンテナ
- ・段ボールケース
- ・包装紙
- ・産業用ポリ袋
- ・包装関連機械（ミシン機、テープ機等）

製造の流れ



環境経営組織及び役割・責任・権限



	役割・責任・権限
代表者	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書の承認 ・環境経営レポートの承認 ・環境経営目標・環境経営計画書の承認 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認
環境管理責任者	・環境経営目標・環境経営計画書の作成、確認 ・環境経営レポートの作成、確認 ・環境経営目標・環境経営計画書の作成、確認 ・環境関連法規等の取りまとめ表の作成、確認 ・環境経営システムの構築、実施、管理
環境事務局	・環境管理責任者補佐の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成補佐 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成補佐及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成補佐、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
環境委員会	・環境経営計画の審議、進捗報告 ・環境活動実績の確認・評価
委員会メンバー	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の社員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全社員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

主な環境負荷の実績

項目	単位	2023年度	2024年度
		7月1日～6月30日	7月1日～6月30日
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	62,793	60,602
産業廃棄物排出量	kg	78,925	71,050
水使用量	m ³	560	671
古紙排出量(有価物) (自主目標参考値)	kg	48,600	45,250

※事業性一般廃棄物に関しては、年間 100kg 程度と少量であることから目標設定せず、適正に管理してまいります。

環境経営目標及びその実績

項 目		年 度	2023年度 (2022年7月～2023年6月)	2024年度 (2023年7月～2024年6月)		評価
			(基準値) 7月1日～6月30日	(目標) 7月1日～6月30日	(実績) 7月1日～6月30日	
電力による二酸化炭素削減 売上高原単位	kg-CO2	46,294	45,831	44,431	○	
	基準年度比	－	99%	96%		
	kg-Co2/千円	0.0670	0.0663	0.0598	○	
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	2,069	2,048	2,214	×	
	基準年度比	－	99%	107%		
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO2	225	222	188	○	
	基準年度比	－	99%	84%		
自動車燃料による二酸化炭素削減 売上高原単位	kg-CO2	14,205	14,063	13,769	○	
	基準年度比	－	99%	97%		
	kg-Co2/千円	0.0205	0.0203	0.0185	○	
上記二酸化炭素排出量合計 売上高原単位	kg-CO2	62,793	62,166	60,602	○	
	基準年度比	－	99%	97%		
	kg-Co2/千円	0.0878	0.0870	0.0816	○	
産業廃棄物の削減 (廃プラスチック、紙くず) ※2021年9月より重量計測開始	kg	78,925	78,136	71,050	○	
	基準年度比		99%	90%		
水道水の削減	m³	560	554	671	×	
	基準年度比	－	99%	120%		
古紙排出量削減 ※自主目標参考値(有価物として) 売上高原単位	kg	48,600	48,114	45,250	○	
	基準年度比	－	99%	93%		
	kg/千円	0.0703	0.0696	0.0609	○	
環境配慮製品・サービスへの取組		行動目標(次項による)				
ペーパーレス化推進		行動目標(次項による)				

※ 電力の排出係数は、本社工場(0.499kg-CO2/kWh:グローバルエンジニアリング 2020 年事業者全体)、

倉庫及び加工場(0.351kg-CO2/kWh:関西電力2020年度メニューF(残渣))を基準に合算加重平均して計測

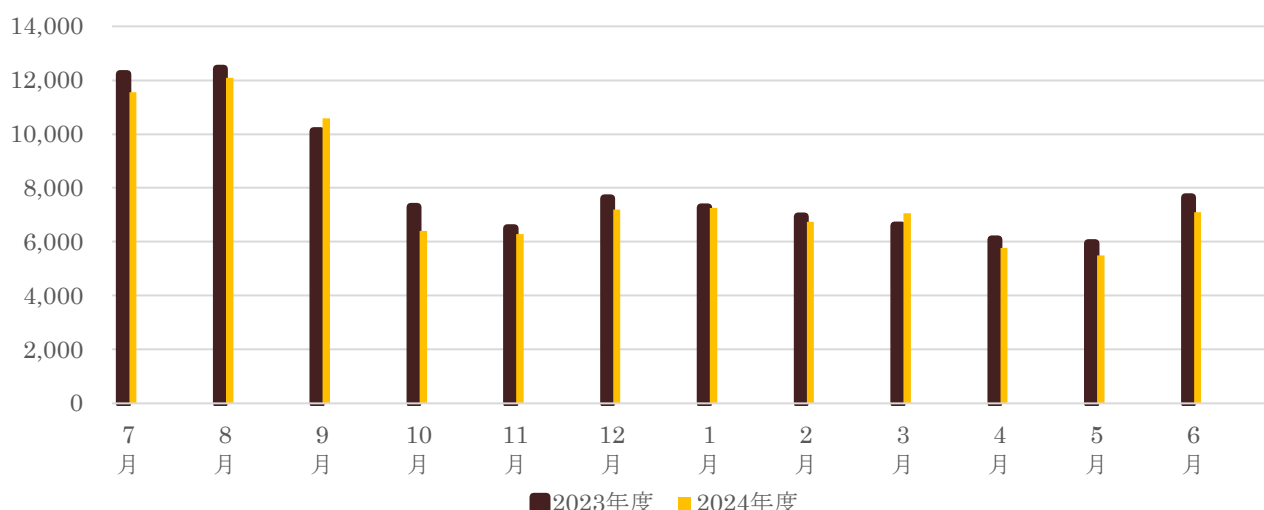
※ 化学物質(PRTR 物質)については、年間使用量(材料含有量)10 kg未満。自社で量を記録し、適正管理を行う。

環境経営計画の取組結果とその評価

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	今期の電力使用量は前期比で96.7%(CO2排出量は96.0%)と目標を上回る削減を達成することができた。これは本社工場の使用量が前期比93.8%と大幅減となったことが大きい。工場の加工数量については約2%減となったことも影響しているが、2023年4月に行ったエアー配管の改修などが効果を発揮したと思われる。 倉庫の一部を改装して始めた新事業の加工数が約3倍になったことでデジタルプリンタの使用頻度が増えた結果、倉庫の使用電力は月平均で200kWh(全体の約2.5%に相当)増加した。この増加分を差し引くと電力使用量は約6%削減できたことになる。 今期は9月の平均気温が27.9度と過去最高となったことで、冷房を使用する期間が例年よりも延びた。今後もこの傾向が続くことも考えられるが、空調設備をより省エネなものに更新していくなどして電気使用量削減と労働環境改善を同時に図っていくことにチャレンジしたい。
省エネ活動	○	

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2023年度	12,220	12,429	10,116	7,302	6,496	7,615	7,283	6,943	6,609	6,095	5,941	7,657
2024年度	11,563	12,093	10,590	6,414	6,281	7,206	7,263	6,736	7,059	5,777	5,487	7,093

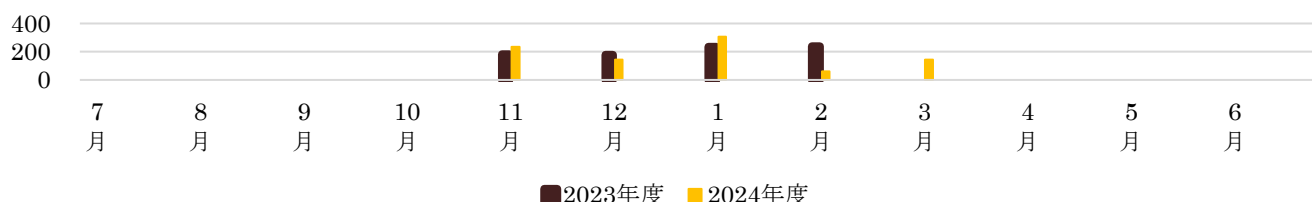
使用電力 kWh



灯油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	年間の灯油使用量が7%増加してしまった。 灯油は冬季のみ使用しているが、2023年11月から2024年2月までの使用量は昨年度に比べ約10%下回っていた。昨年度3月は灯油を使用していなかったのに対し、今年は使用し続けていたために累計使用量が逆転した。これは、3月の平均気温が9.5℃と昨年に比べて3.5℃も低かったことで、ストーブの使用期間が一か月近く長くなってしまったことに起因すると思料する。
省エネ活動	○	

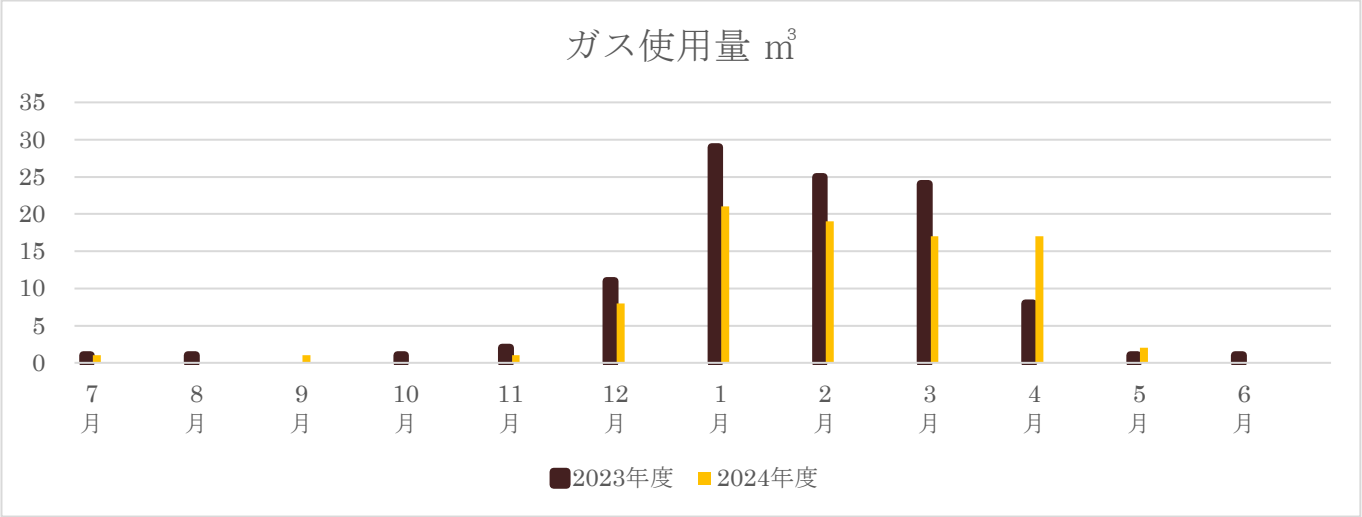
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2023年度	1	1	0	1	2	11	29	25	24	8	1	1
2024年度	1	0	1	0	1	8	21	19	17	17	2	0

灯油使用量 ℓ



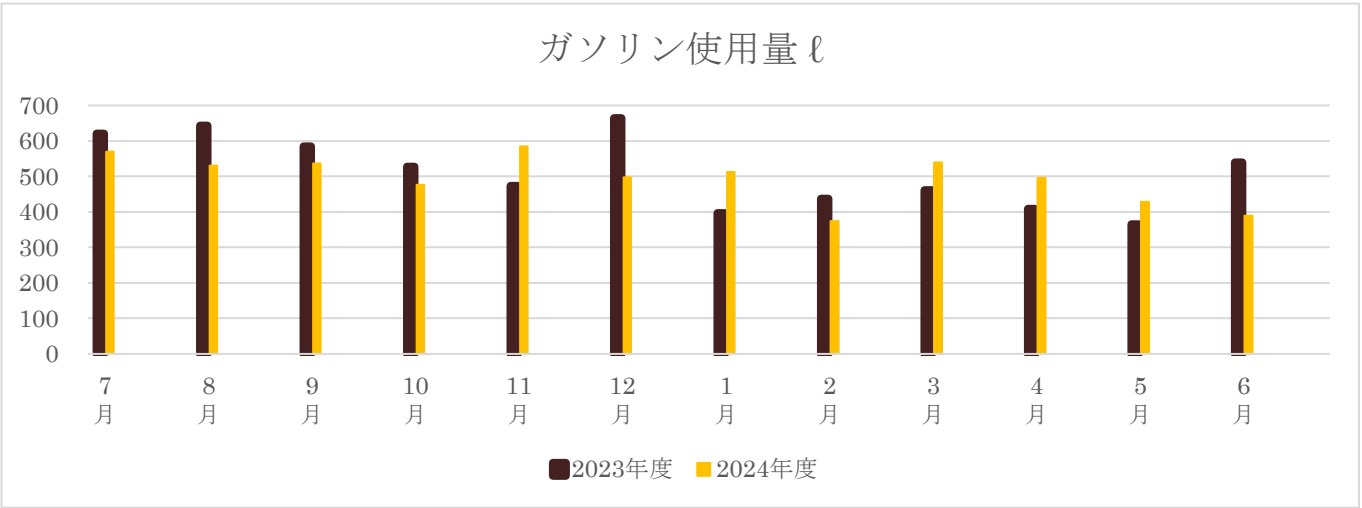
都市ガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	今期のガス使用量は、昨年度より16%削減することができた。 昨年度から事務所や休憩室の給湯機を冬季以外は使用しないこと、また、冬季も低温設定で使用することを徹底してきた。特に設備の更新などは行っていないが、省エネ意識の向上から使用量削減がなされたものと思われる。2024年4月の使用量（実際には3月分）のみ前期を上回ったが、これは平均気温が前期より3度以上低かったことが影響した。 今後大きな削減は見込めないが、引き続き低位維持を続けていけるように意識していく。
省エネ活動	○	

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2023年度	1	1	0	1	2	11	29	25	24	8	1	1
2024年度	1	0	1	0	1	8	21	19	17	17	2	0



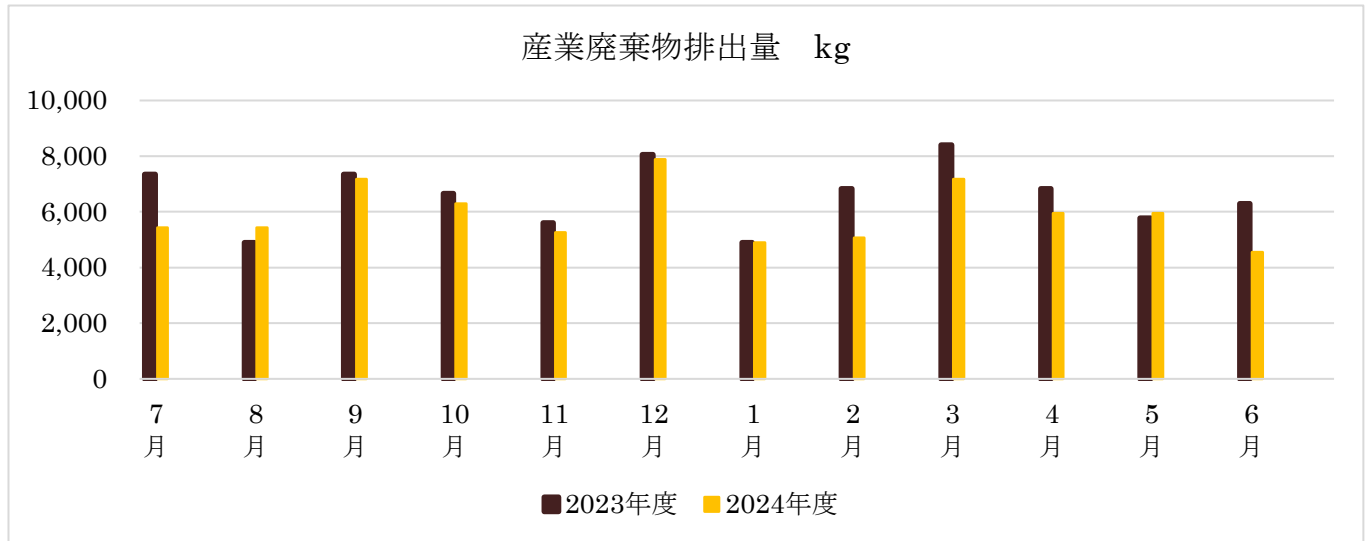
自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	今期のガソリン消費量を約3%削減することができた。営業活動の活発化により、外交用営業車3台の総走行距離は9000km程増加したものの、ガソリン使用量を削減できたのは、2024年2月にガソリン車からハイブリッド車への入替を行ったことが主因と考えられる。前回エコアクション21の審査員からのアドバイスを受け、営業車の燃費(概算)を計測できるように車ごとの走行距離とガソリン購入量を記録した結果、ガソリン車が10-12ℓ/kmであったのに対し、ハイブリッド車は20-25ℓ/kmと2倍の燃費であることが分かった。前期報告の通り、2023年10月に入社した営業社員が2024年3月以降車で外交を開始しているため、ガソリン使用量が増加傾向にある。2025年3月に営業車のハイブリッド車への入替を予定(全車入替が完了)
定期自主点検	○	
遠方移動時のハイブリッド車利用	○	

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2023年度	620	643	585	528	473	664	397	438	462	409	365	539
2024年度	570	530	536	476	585	497	513	374	540	496	429	389



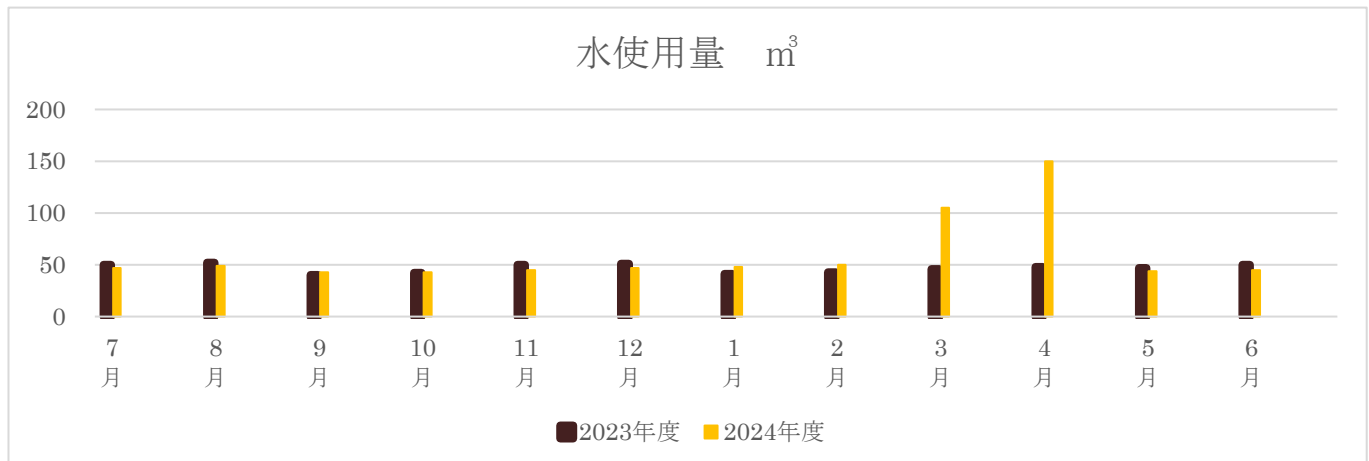
産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	今期は、産業廃棄物排出量を10%削減できた。 目方計測になるため、精度は低いが、産業廃棄物の排出削減を実現した。これは、主にロスや機械トラブルの減少が影響しているものと思われる。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2023年度	7,350	4,900	7,350	6,650	5,600	8,050	4,900	6,825	8,400	6,825	5,775	6,300
2024年度	5,425	5,425	7,175	6,300	5,250	7,875	4,900	5,075	7,175	5,950	5,950	4,550



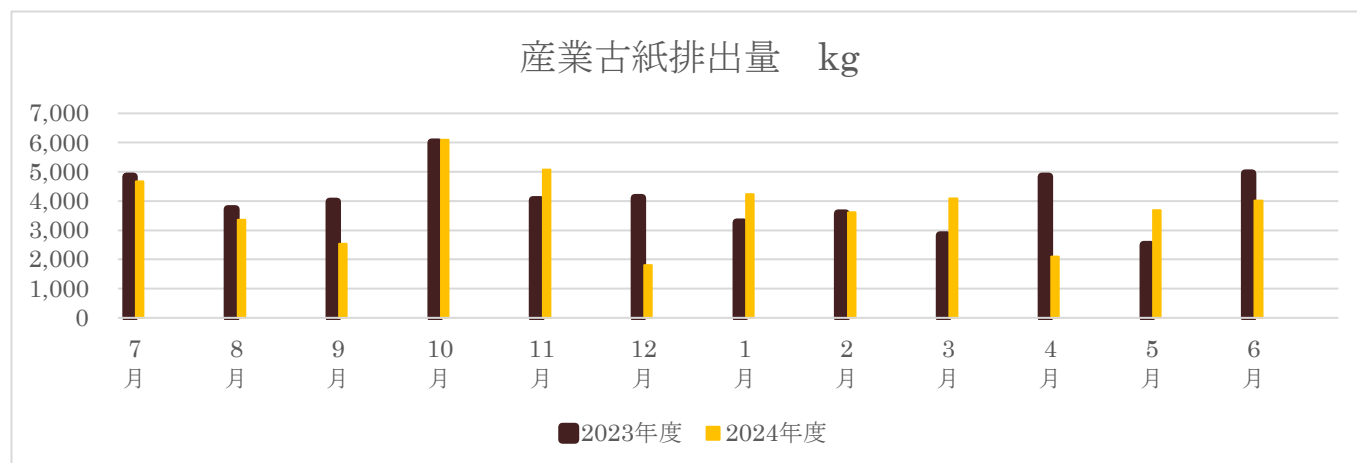
水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	水道の使用量は、前期比で20%増加してしまった。 これは、2024年3月から工場外で水が出っぱなしになっていることに気付かずに行ったことで、2か月に渡り、約120㎡の水を流してしまったことが原因。
省エネ活動	○	水道料金連絡時に気が付き、すぐに原因を突き止めて対処したが、大きな損害となった。 来期は、2024年度ではなく、2023年度を基準とした1%削減目標を掲げて取組んでいきたい。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2023年度	50	52	40	42	50	51	41	43	46	48	47	50
2024年度	47	49	43	43	45	47	48	50	105	150	44	45



古紙排出量の削減(有価物として)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	今期は、古紙の排出量を約7%削減できた。古紙の回収が2週間に1度程度なので回収のタイミングがずれて単月では3回前期を上回る排出量となったが、平均では大きく削減することができた。 生産数量が約2%減少したことも影響しているが、機械切替時のロスや工程ミスによるロスを削減できたことが大きい(大型印刷機の一ロット当たりのロス数は約10%、製袋機のロス数は約5%削減)。
機械切替時のロスの削減	○	
ミスによる製造ロスの削減	○	

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2023年度	4,830	3,730	3,970	6,000	4,040	4,100	3,260	3,570	2,820	4,840	2,490	4,950
2024年度	4,670	3,350	2,530	6,090	5,070	1,810	4,240	3,610	4,080	2,100	3,690	4,010



環境に配慮した製品・サービスへの取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
後刷り米袋の製造販売	○	オリジナル印刷入りの包材を少ロットで製造する後刷り印刷サービスを継続。販売数量は、昨年度と比較して約3倍となった。WEB経由の広告活動などに取組むことで続き販売拡大していきたい。

ペーパーレス化推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
事務関連の紙ごみの重量を毎日計測	○	・事務所で廃棄する紙は、前期169kgだったのが、今期108kgと34%削減することができた。 ・昨年4月から開始したFAXのペーパーレス化取組が通年で効果を発揮したことが大きな要因と思われる。 ・紙での連絡を減らす取組については、今期は、新規取引先申請の紙での回付を止めて、システム上での決裁を行うなど ・今期は、請求書の電子化(楽楽明細サービスを使用)も開始したことで、今で行っていた請求書の自社での印刷、郵送が無くなった。こちらも紙の使用量削減につながったと考える。 - 来期は、納品書の電子化に取組む予定。
FAXのペーパーレス化	○	
紙での連絡を減らす業務効率化取組	○	
請求書の電子化	○	

次年度環境経営目標及び環境経営計画

2024 年度として、2023 年 7 月から 2024 年 6 月までの 1 年間について実績を報告させていただきました。

2025 年度については前年度比 1%の削減を目標といたします。また、数字目標とは別に、次年度も、業務効率化にもつながる事務所における各種書類のペーパーレス化に引き続き取り組んでまいります。

項 目		年 度			
		2024年度 (実績) 基準年	2025年度 (目標)	2026年度 (目標)	2027年度 (目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	44,431	43,986	43,547	43,111
	2024年度比	－	99%	98%	97%
	売上高原単位 kg-CO2/千円	0.0598	0.059	0.059	0.058
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	2,214	2,192	2,170	2,149
	2024年度比	－	99%	98%	97%
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO2	188	186	184	182
	2024年度比	－	99%	98%	97%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	13,769	13,632	13,495	13,360
	2024年度比	－	99%	98%	97%
	売上高原単位 kg-CO2/千円	0.0185	0.0184	0.0182	0.0180
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	60,602	59,996	59,396	58,802
産業廃棄物の削減 (廃プラスチック、紙くず) ※目標は2022年度10カ月実績を12カ月換算	m ³	71,050	70,340	69,636	68,940
	2024年度比	－	99%	98%	97%
水道水の削減 ※2024年度は漏水により大きく数字が増加したため2023年度基準の目標とする	m ³	560	554	549	543
	2023年度比	－	99%	98%	97%
古紙排出量削減(有価物として) ※自主目標参考値	kg	45,250	44,798	44,350	43,906
	2024年度比	－	99%	98%	97%
売上高原単位	kg/千円	0.0609	0.0603	0.0597	0.0591

環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果，並びに違反，訴訟等の有無

環境関連法規制等名称	該当する設備・項目	実施状況
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の委託基準確認(許認可)	○
	保管基準(掲示板:60cm×60cm以上表示、飛散・浸透防止、衛生管理)	○
	産業廃棄物のマニフェストの交付	○
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	○
騒音規制法	特定施設の届出及び地域騒音基準の順守(八尾市環境保全課)	○
振動規制法	特定施設の届出及び地域振動基準の順守(八尾市環境保全課)	○
浄化槽法	保守点検、清掃、記録の保管(3年間)	○
	定期水質検査	○
フロン排出抑制法	第1種特定機器(業務用空調機)の簡易点検(3カ月毎)	○
	登録充填回収業者によるフロン類回収時の委託確認書交付と引取証明書の保存	○

エコアクション 21 を申請にあたり、関連法規について再確認を行い、必要な更新・報告などを行いました。

環境上の違反や訴訟は、過去 5 年間ございません。

代表者による全体の評価と見直し・指示

2024 年度は、CO2 総排出量を昨年度比で約 3.5%削減することができました。全体の約7割を占める電力使用による CO2 排出を 4%削減できたことが大きかった。製品加工数に大きな変動がない中、電力使用量を減らすことができたのは、昨年度に工場内のエア配管の更新を行ったことでコンプレッサーの稼働効率が上がったことやその日の気温に合わせてエアコンの設定を調整するなど省エネ意識が向上したことが影響していると思います。ガソリンの使用量についても、ガソリン車からハイブリッド車への入替が進んだことで、営業活動の活発化・営業社員の増員から営業車の走行距離が約 11%のびたにもかかわらず約 3%削減することができました。一方で、灯油の使用量が増加(3 月まで気温が低い日が続いたため、ストーブを使う期間が延びてしまったことが原因)、そして、漏水を起こしてしまったことで水使用量が増加してしまいました。

2025 年度も CO2 削減につながる設備投資を行ってまいります。まずは、老朽化した事務所の空調設備の入替え、そして、営業車のハイブリッド車への入替え(常時使用する 6 台については全てハイブリッド車となる)、電力使用削減につながるかは未知数ですが、製造機械に設置されているモーターの入替えを順次行っていく計画であります。また、製造部の事務所として使用している古い建物を解体し、事務所を一体化する工事を進めていきます。

設備投資以外でも取組を進めてまいります。今期から営業車ごとの燃費計測を開始したので、営業社員に情報共有し、燃費向上に向けて取組んでもらいます。また、今期開始した請求書の電子化に続き、2025 年度は納品書の電子化を開始する準備を進めております。これにより、事務用紙の使用量を大幅に減らすことができると考えております。

省エネ意識は、本取組を開始してから高まりましたが、高い状態で継続していくことが課題だと考えております。現状は代表からの発信がメインの取組となっておりますが、今後は、全社員が「エネルギーを無駄にしないように気を付ける」、「CO2 削減につながる改善方法はないか?」といった意識を持って自発的な活動を増やしていかなければなりません。有効な設備投資を続ける共に、社員の自発的な省エネ活動を増やしていくことで 2025 年度も CO2 削減に取り組んでいきたいと思っております。

環境方針 ☐変更あり ☒変更なし

実施体制 ☐変更あり ☒変更なし

環境経営目標 ☐変更あり ☒変更なし

(見直し実施日 2024 年 12 月 11 日)

これまでの環境活動の紹介

＜2024 年 2 月＞営業車を 1 台ガソリン車からハイブリッド車への入替を行った。2025 年 3 月にもう一台を入れ替えることで、会社所有車は廃車予定の一台を除き全てハイブリッド車となります。



＜2024 年 12 月＞敷地内の老朽化した木造建物の解体を開始しました。

